

各地にできる日本風情街 – 中国・江蘇省

上海デスク 谷口 弘記

コロナ禍で外国に旅行に行けなくなってしまった中国人。ゼロコロナ政策の継続によりコロナ前のような自由に外国へ旅行に行ける日はまだまだ先になりそうです。旅行先として人気だった日本へは、2019年に9,594,394人（出典：日本政府観光局）の中国人観光客が訪れ、20,418億円（出典：観光庁 訪日外国人消費動向調査）の消費をしたと言われています。そんな日本好きな中国人が日本に行けないからどうかは知らないが、各地で日本風情街が出来ています。今回は上海の隣の江蘇省の日本風情街をご紹介します。

蘇州新区の淮海街（新区商業街）

『ジャパニーズ・ストリート』と言う名が最も似合う日本風情街が蘇州新区（淮海街）にあります。一直線に伸びた道路に何十軒もの日本料理店やバーなどが立ち並んでいます。以前は日本人が仕事帰りに立ち寄るストリートでしたが今は昼食時、夕食時にたくさんの中国人が訪れます。2020年秋にリニューアルされ観光地化もされランドマーク的な存在にもなっています。

当初ストリートの出入り口付近に浴衣のレンタルショップなどもあったのですが、あまりにも日本過ぎるだろうということで営業停止に追い込ま



淮海入口付近。綺麗にリニューアルされ観光スポットになっている

れました。やり過ぎると問題化してしましますが、それくらい人気があり有名になってしまったのが蘇州の淮海街（商業街）です。

無錫新呉区の假日広場（東亜国際風情街）

蘇州市の隣にある無錫市に新天地假日広場という飲食店が集合している商業施設があり、日本料理店が約70軒、バーが約60軒がひしめき合っています。こんなに集まっている商業施設は世界の中でも日本を除きここくらいではないでしょうか。現在リニューアル中で、2022年中のオープンを目指しているようです。他都市と同じように観光地化を狙っているようです。一時期は韓国料理店の方が多かった時期もありましたが、最近は韓国系は別のところに移動し始めており、相対的に日本料理店が目立つようになって来ています。日本料理店の中でも食べ飲み放題の店は中国人客が多く、そうでない小さめの店に日本人客が多いです。仕事帰りの日本人が夜な夜な訪れる広場になっています。

常州新北區の漢江東路（国際風情街）

無錫市の隣の常州市にも日本人街があります。新北區の漢江東路というところで、2021年秋にリニューアルされ、国慶節には煽れんばかりの人が集まりました（写真参照）。ここは以前より日本料理店が連なっていた（何故か北側だけに集中している）のですが、リニューアルされる前は駐在する日本人の減少に伴い廃れてきていました。ところが突然のこの活況。他都市にも影響を与えたようです。



漢江東路
まるで祭りの人の多さです

日本人街の共通点

中国各地に存在する日本人街ですが、どこも“日本”という名称を使わないという共通点があります。蘇州は道路の名称である『淮海街』、無錫は日本風と韓国風しかないのだけれど『東亜国際風情街』、常州はほぼ日本風しかないのだけれど『国際風情街』で、いずれも明らかに“日本”がメインなのですが、“日本”や“和”など日本を表すワードは見当たりません。反日感情を抑えるためなのでしょう。2012年に反日デモは中国各地で起こりましたがそんな中で唯一デモがなかったと言われる大連でさえ『盛唐・小京都』から『盛世・東都瑞景』に名称を変更させられています。やはり本当の日本は日本に行かないと味わえないということです。これはコロナ禍明けのビジネスチャンスになるかもしれませんね。

兵庫県人会

今回ご紹介した3都市の中の無錫市に兵庫県人会がごぞいます。兵庫県にゆかりのある人たちが集まって不定期に食事会などを開催し情報交換をしております。また中国大陆には北京、上海、広州など、他都市にもごぞいますので、もし駐在の方で興味ございましたらご入会されるのも良いかと思います。



過去の無錫兵庫県人会。無錫市は明石市と友好都市です

ひょうご海外ビジネスセンターは、世界11カ所に海外展開現地相談窓口として「ひょうご国際ビジネスサポートデスク」を設置しています。本通信は、毎月1回、各デスクから寄せられる現地トピックスを順にお届けするものです。

【発行 公益財団法人ひょうご産業活性化センター ひょうご海外ビジネスセンター】